

出雲市観光戦略会議

1. 開催日時 令和8年3月23日（月） 14時30分～16時00分

2. 開催場所 ラピタウエディングパレス 孔雀

3. 出席者

（委員）

会長	田邊 達也	((一社) 出雲観光協会 会長)	※委員による互選後
副会長	錦田 剛志	(万九千社 宮司)	※委員による互選後
委員	石原 稔功	(出雲ホテル連絡協議会 会長)	
	今岡 真治	(出雲市議会 環境経済委員会 委員長)	
	今岡 真澄	(富士酒造合資会社 常務)	
	坂本 水穂子	(株)出西窯 取締役)	
	平井 敦子	((一社) 木綿街道振興会 専務理事)	
	福岡 正純	(出雲市商工団体協議会 会長 (出雲商工会議所 会頭))	
	三島 貴子	(NP0 法人スサノオの風 事務局長)	
	渡部 稔	(有)出雲観光タクシー 代表取締役・出雲インバウンド事業推進協議会 会長)	

(10名)

（事務局）

神田 圭子	(出雲市観光交流部長)
田中 寛	(出雲市観光交流部付課長 (出雲観光協会駐在))
立花 祐樹	(出雲市観光交流部付主事 (出雲観光協会駐在))
岩崎 和人	(出雲市観光交流部インバウンド推進課長)
清水 あゆこ	(出雲市観光交流部インバウンド推進課主査)
原 哲也	(出雲市観光交流部観光課長)
水 良弘	(出雲市観光交流部観光課主査)
原 育也	(出雲市観光交流部観光課係長)
高橋 達充	(出雲市観光交流部観光課副主任)

4. 会議内容

（事務局）

ご案内の時刻となりましたので、ただいまから第1回観光戦略会議を開始いたします。

本日は、大変ご多忙の中、第1回出雲市観光戦略会議にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

しばらくの間、事務局が進行役を務めさせていただきます、どうぞよろしくお願いいたします。

初めに飯塚市長があいさつを申し上げます。

（飯塚市長）

みなさん、こんにちは。本日は大変お忙しい中、ご都合をつけていただき誠にありがとうございます。また、日頃から市政全般、特に本市の観光振興に格別のご支援・ご理解ご協力をいただいていることを御礼申し上げます。

今日は、第1回観光戦略会議を開催させていただきました。出雲市観光基本計画の策定にあたって、委員を務めていただいた方もいらっしゃいますし、新たに委員になっていただいたみなさまもいらっしゃいます。どうかそれぞれに活発なご議論をいただきますようお願い申し上げます。

昨年3月に、本市ではいま申し上げた「出雲市観光基本計画」を策定し、将来像として「住んでよし、訪れてよしの観光まちづくり」を掲げ、観光振興の取組を進めているところです。

この度、計画の実効性を高めるため、具体的な取組を示した「観光基本計画アクションプラン」を作成いたしました。本日の観光戦略会議は、このアクションプランの進捗を確認し、今後の観光施策の方向性についてご意見をいただく初めての会議となります。

近年、観光を取り巻く環境は大きく変化しており、地域の関係団体や事業者のみなさまと連携しながら、観光地としての魅力を高めていくことがますます重要となっています。

ちょうど三連休でしたが、出雲大社周辺など多くの観光客のみなさまに訪れていただきまして非常にうれしいことではございますが、一方で渋滞などについて地域のみなさまと一緒にやっていくことの必要性を感じているところです。そうしたことについてもいろいろ取り組んでいきたいと思っています。

また、本市におきましても、出雲観光協会がDMOの認定を受け、地域が一体となって観光振興を進めていく体制が整いつつあります。この観光振興を持続的に進めていくため、新たな観光財源の確保についても現在検討を進めているところです。

本日の会議では、委員の皆さまの専門的なお立場や現場の視点から、忌憚のないご意見を頂戴したいと思っているところでございます。

改めてになりますが、「住んでよし、訪れてよし」の出雲の魅力ある観光まちづくりの実現に向けてご尽力いただきますことをお願い申し上げ、開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

続きまして、委嘱書の交付を行います。本会議の委員の皆様には、任期を2年間でお願いをさせていただきます。

委嘱書交付

(事務局)

本日は、令和7年3月の「観光基本計画」策定後、初めて実施する会議となりますので、委員のみなさまから一言ずつ自己紹介をお願いします。

委員自己紹介

(事務局)

事務局職員の紹介は、お手元の名簿をもって代えさせていただきます。

それでは議事に入りたいと思います。出雲市観光戦略会議設置要綱第5条により、戦略会議の会長及び副会長を委員の互選により選出することとなっています。どなたか、会長、副会長についてご意見はございませんか。

(A委員)

観光基本計画の経緯もございますので、会長を務められた田邊さんを会長に、副会長も同様に錦田さんを副会長になっていただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

拍手による承認

(事務局)

それでは、A委員のご提案のとおり、会長を田邊委員、副会長を錦田委員に選出したいと思います。

それでは、田邊会長、錦田副会長には、席のご移動をお願いします。

席移動

会長・副会長あいさつ

市長退席

(事務局)

それでは、議題に入る前に、ご案内させていただきます。本会は原則公開で開催し、資料及び議事録は会議終了後ホームページ等に掲載します。

続いて、配布資料の確認をさせていただきます。本日お配りした資料は、会議次第・委員名簿・資料1・出雲市観光基本計画アクションプラン・(参考資料) 出雲市観光戦略会議設置要綱、以上5点でございます。

また、委員全員ご出席いただいておりますので、本会議が成立していることをご報告いたします。

それでは、ここからの進行につきましては田邊会長にお願いいたします。

(会長)

それでは、議題に入ります。では、最初に議題①アクションプランについて、②観光戦略会議による観光基本計画の進捗管理について、一括して事務局から説明をお願いします。

(事務局)

議題①アクションプランについて、②観光戦略会議による観光基本計画の進捗管理について、ご説明させていただきます。

まず本日の会議では、最初に令和7年度版のアクションプランの作成についてご報告をさせていただきます。次に、観光戦略会議においてアクションプランに基づき観光基本計画の進捗管理をしていく流れをご説明いたしまして、委員のみなさまによる今後の評価をお願いさせていただきます。そののち、令和7年度の数値が出そろっていないために中間報告とはなりますが、出雲観光協会のDMO登録をはじめ、令和7年度の主な取組についてご報告し、ご質問・ご意見をいただきたいと思いますと考えております。

資料1の2頁をご覧ください。アクションプラン策定の目的は、令和7年3月に策定した「出雲市観光基本計画」の実行性を高め、その進捗を評価・管理することを目的に作成しました。このアクションプランを昨年12月に市議会に報告し、ホームページに掲載するなどして公表しています。

続いて、アクションプランの構成です。観光基本計画の戦略A～Dにおける主な取組一つずつに対して主たる事業内容・評価指標・スケジュール・実施主体を定めたものになっています。このアクションプランについては、毎年度見直すとともに公表してPDCAサイクルによる効果的な計画推進を図るということを観光基本計画に記載しているところです。初版である令和7年度版を、今後、より具体化していき、重点化や優先順位を考えながら取組を進めていきます。

アクションプランの冊子をお配りしておりますので、2頁目をご覧ください。アクションプランの目次を載せております。先ほどご説明いたしました策定の目的、戦略の体系図、背景シートで構成されています。

アクションプランの4頁をご覧ください。「将来像の実現に向けたアクションプラン（全体の進め方）」について少しご説明をさせていただきます。

目指すべき将来像である「観光地経営でなす 住んでよし、訪れてよしの観光まちづくり」について、「観光地経営でなす（地域経済の発展）」と「住んでよし、訪れてよしの観光まちづくり」の間に観光地経営による好循環を生み出します。

そのため、まず基礎となる取組としての戦略Aに取り組みます。Step1として観光客に選ばれ続ける観光地の方向性を示すマーケティング戦略を出雲観光協会において策定し、ターゲット層や重点市場を明確にして今後の施策を進めます。また、宿泊データ分析システムや地域版旅行商品販売サイト（地域OTA）といった情報収集ツールの運用拡大を図りながら、マーケティングの考え方や方法について地域の事業者・関係者への普及を図っていくこととしております。これによって数値的な根拠に基づく効果的な観光施策を立案し、誘客や消費につなげていきます。

同じく基礎となる取組である戦略D：観光地経営体制・人づくりです。観光地経営の司令塔となるDMOの構築や新たな観光財源の検討を進め、効果的かつ安定的に観光施策を推進し、経営できる体制を整えることを行います。

これらの基礎となる取組を踏まえて、計画の推進に軸を移して戦略Bを進めていきます。

価値を提供できる周遊滞型・通年型の観光まちづくり、多様な地域課題への貢献に向けて地域戦略会議を運営して旅行商品の充実や周遊ストーリーの強化を図っていきます。このために、市民へのインナープロモーションが非常に重要であり、市全体の取組を通じて地域の

魅力や価値の再認識、愛着や誇りの醸成につなげます。また、喫緊の課題への対応として交通確保や渋滞対策、危機管理などに取り組み、次の段階で歴史文化資源の活用や宿泊機能強化など受入基盤の充実を図っていきます。次の Step として移住定住の促進や特産品販路拡大といった地域の持続性につながる取組に発展させることを考えながら進めていきます。

戦略 C：誘客・ファン拡大では出雲の特別性を打ち出し、情報発信やリピーター、ファンの獲得施策を強化します。この結果、観光地経営による好循環を生み出し、住んでよし、訪れてよしの観光まちづくりを持続的に実現していきます。

13 頁以降にある施策シートの見方は議題 3 の実施状況報告の中でご説明いたします。

資料 1 に戻りまして、5 頁をご覧ください。

議題 2「観光戦略会議による観光基本計画の進捗管理について」、今後の毎年度のサイクル案を記載しています。6 月末に前年度の数値が出そろい、取りまとめたところで 7 月頃に観光戦略会議を開催する予定としております。主な施策について実施状況をまとめ、市の評価・改善点をお示ししたうえで、委員のみなさまから「ここをもっと頑張るべき」「この点が評価できる」といったご意見をいただくなどして改善につなげていきたいと思っております。いただいた意見を踏まえて、会議後にアクションプランを見直し、庁内や関係機関に確認したのち、9 月を目途に当該年度のアクションプランを作成して公表する予定です。この更新後のアクションプランに基づき事業を進めるとともに、次年度の予算要求や業務計画を準備していくサイクルを回していきます。

今年度は初年度であり、この図のサイクルの前段である本日の会議において今後の評価のお願いと中間報告をさせていただきます。7 月には改めてまとめた数値等をお示しする観光戦略会議を開催したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

説明は以上です。

(会長)

ありがとうございます。とりあえず、アクションプラン全体と進捗管理についての一括のご説明でした。この段階でみなさんからご質問・ご意見ございますでしょうか。

ないようですので、続きまして令和 7 年度の実施状況についてご説明をいただきたいと思っております。

(事務局)

資料 1 の 7 頁にあります数値目標の速報値についてご説明いたします。本市の観光における主な指標を入込・滞在・消費額・周遊性・リピーター・繁閑差・インバウンドといった観点で整理しています。

2025 年の速報値としては、入込客延べ数が 1,213 万人となり、前年から増加しています。宿泊客延べ数については 88 万人となりまして、目標の 100 万人にむけて着実に増加しています。入込・宿泊とも、令和 6 年の日御碕の道路崩落から回復したことや、閑散期である 12 月に神在月が含まれたことで増加したものとされます。また、須佐神社の遷宮による増加も影響したと考えられるところです。宿泊施設の収容人数についても、新規施設の開業や改

修による増加があり、受入体制の強化が進んでいます。一方で、稼働率はまだまだ伸びしろのある状況だと考えているところです。観光消費額については現在算定中ですが、物価そのものが上昇傾向にあるため、特に宿泊客の消費単価は増加傾向にあります。周遊性については、令和6年で1.32箇所と目標の1.6箇所と比較すると課題が残る状態です。リピーター率については日帰りは減少傾向にありますが、宿泊は増加していますので、令和7年の確定値についても注視していきたいと思います。繁閑差についても改善傾向がみられ、通年型観光への兆しが見え始めているかと思います。インバウンドについては、台湾やベトナムを中心に大きく増加しており、回復傾向が顕著にみられるところです。

以上が数値目標の速報値の概要になります。

続きまして、8頁とアクションプランの44頁をお開きください。戦略D-1「DMOを中心とした観光地経営体制の構築」でございます。資料1の上段はアクションプランをそのまま載せております。今後、進捗管理を行っていく際には、下段にある実施状況・評価・改善策という項目でひとつひとつ確認していきたいと思っています。今後、委員のみなさまにはこうした形式で資料をご提供いたしますので、ご意見をいただきたいと考えております。今日は主な取り組みを4つほどご説明させていただき、ご意見をいただきたいと思っております。

9頁になります。昨年10月1日付で、出雲観光協会はDMOの登録を受けております。その後、協会の理事会に組織強化委員会を設置し、観光協会の全体方針・事業方針・事務局体制の改変の検討を進めております。この評価としては、無事DMO登録を受けることができました。事務局体制についても検討が進んでおります。9頁以降に関連する資料を載せております。

10頁をご覧ください。「DMOとしての取組の考え方」ですが、DMOとは、地域の「稼ぐ力」を引き出すため、多様な関係者と協働し、科学的根拠に基づく観光地経営の司令塔となる組織でございます。出雲観光協会として、具体的な取組を4つの柱として集約しています。①「調査・分析」が「出雲に関心を持つ人を明確に把握すること」、②「プロモーション」が「その人たちに、出雲の魅力を効果的に届けること」、③「環境整備」が「来訪しやすい予約・手配の環境を整えること」、④「商品・サービスの磨き上げ」が「訪れた人が求める商品やサービスを提供すること」。これらを通じて、市全体が宿泊や消費を促進して、地域経済を潤すことを考えているところでございます。

11頁になります。DMOがもたらす効果として4つ掲げております。①市との役割を明確化することで効率化できる、②地域との連携を強化できること、③組織力の向上、④財源の多様化といったメリットがあると考えております。

12頁になります。メリットをきちんと出していける組織になるため、組織強化委員会を立ち上げ、検討を進めてきているところでございます。新年度から事務局も新体制となって、この方針に基づく事業を着実にすすめて成果をあげていきたいと考えているところでございます。また、事務局の組織基盤強化として理事会の体制や会員制のあり方についても検討を進めていく予定としております。

続いて、13頁になります。A-1「戦略的マーケティング活動の展開」の今年度の実施状況並びに評価・改善策についてご説明いたします。マーケティング戦略の策定については、明

日開催される観光協会の理事会で理事のみなさまにご説明する予定です。本日のところは、戦略の考え方の部分をご説明させていただきます。

14 頁をご覧ください。出雲観光協会のマーケティング戦略の考え方を記載しています。まず現状分析に基づくターゲットを設定し、旅行者像を明確にし、観光協会の根幹となる全体方針を策定しております。その後、全体方針に基づいて観光における出雲の課題である通過型観光の解決に向けた事業方針を 3 つ定めさせていただいております。この事業方針に基づく事業を遂行する事務局として組織を改変したところです。加えて、数値目標をきちんと立てて、それを測定する仕組みを構築することにしています。

15～20 頁において、ターゲットの設定から全体方針・事業方針・事業内容・数値目標を書いております。本日のところでは、17 頁についてご説明させていただきます。事業方針として 3 つ掲げています。周遊滞在型通年型の観光地を目指すために、1 人当たりの消費額を増やします。また、宿泊者数を増やします。そして、格差を減らします。これは地域の格差という意味と繁閑差を減らすという意味が含まれております。これらの事業方針に基づき、マーケティングの結果に基づく事業を行います。それを実施していく体制をこの度整理したというところでございます。

以上が戦略 A-1・D-1 の主な取組となります。

続きまして、21 頁です。「人的ネットワーク化と情報共有・連携の推進」についてご説明いたします。地域観光戦略会議の運営については、「評価」のところに記載している通り、各エリアで地域内事業者の新たな議論の場となり、具体的に事業が動いたことでお互いを知り、地域で観光地経営に進んでいくためのスタートを切ることができたと感じているところです。また、会議を通じて、地域資源や特性の再確認が進んでいると感じております。

佐田・出雲南部エリアでは、NP0 法人スサノオの風を中心に、事業者の意見が固まり、須佐神社の遷宮奉祝行事に併せて地域産品を集めたマーケットが開催され、地域の重要行事に花を添えました。

多伎・湖陵・大社エリアでは日本遺産地域プレイヤーズ連絡会議を兼ねて、目的に応じて地域ごとに会議を開催しました。多伎・湖陵地域では、冬神楽公演にあわせたマルシェを開催しました。一方、大社地域では、神門通りのまちあるき環境、特にトイレ不足について情報交換させていただく会議を開催しました。

斐川エリアでは、地域紹介動画サイト「なおりす〜か」の活用、平田エリアでは SNS の共同投稿や地域団体の連携の必要性について議論が行われております。

改善策としては、市全体の方針を共有し、地域における議論をより深めていくことが求められています。

22 頁は地域プロジェクトの検討です。「評価」に記載した通り、地域戦略会議を踏まえて実施したイベントでは、当日の集客だけではなく地域の事業者のみなさまが連携して地域を PR できるはじまりの取組としての効果を感じているところです。この取組を通じて、地域内の事業者のコラボ商品が生まれるなど波及効果も見られております。

23 頁では地域との協働体制の構築について触れています。佐田・出雲南部エリアでは、NP0 法人スサノオの風に、①地域戦略会議の運営・②地域プロジェクト実施の業務を委託し

ています。Check・Actionに記載したとおり、観光協会・市と連携する中で地域にあって、事業者と蜜に連携できる団体があれば、地域に応じた形で他地域でも地域事務局を委託したいと考えております。

24 頁ではこれら主な取組のチラシなどを掲載しています。

続いて 25 頁になります。安定的な新たな観光財源の検討状況について説明させていただきます。本取組は観光基本計画に掲げる施策を着実に推進していくために安定的かつ持続可能な財源を確保することを目的としております。前提として観光基本計画に基づく施策を進めるために必要な財政需要について財源をどのように確保していくかが本取組の中心となります。そのため、本市では令和 7 年 7 月に新たな観光財源検討委員会を設置し、これまで 4 回の検討を行ってまいりました。具体的な内容と取組状況についてですが、基本計画に基づく施策を進めるために必要な財政需要額を約 2 億 3,000 万円として整理しております。その財源確保の手法として宿泊税を主軸に検討を進めているところです。併せて、出雲大社周辺の市営駐車場のあり方の見直しを含め、複数の手法を組み合わせた検討を行っているところです。

制度の検討にあたっては、宿泊事業者のみなさまのご理解が不可欠であるため、全 8 か所での説明会を開催し、ご参加をいただいたところです。現場のご意見も丁寧に伺いながらの検討を行っています。

委員の構成やこれまでの検討状況については 26・27 頁にまとめておりますので、後ほどご覧いただければと思います。

宿泊事業者説明会でいただいたご意見を 29 頁にまとめています。観光振興のための財源が必要であること、また、予算を確保するために宿泊税を軸に検討することに対しては大きな反対意見はございませんでした。財源の使途については、二次交通の充実・公衆トイレの維持管理・宿泊客の安全確保など具体的な還元を求める声も多くありました。税率については、制度のわかりやすさ・事務負担の軽減等の観点からどの料金区分でも同一の税額とする定額一律制をもとめる声が多数でした。当該金額以下の場合には課税を行わない免税点を設定するかどうかについてはいらないという事業者と低価格の施設・宿泊者への配慮から必要だという意見の双方がありました。また、課税免除についてはフロントで個別判断が生じない制度にしてほしいという声が多くありました。

30 頁が、3 月 17 日の第 4 回検討委員会の方針をまとめた内容になります。事業者の意見等も踏まえ、税率については定額制とするが、高価格帯の宿泊施設も存在することから段階を設けるか否かについては継続検討となっています。また、免税点については隣接する松江市との均衡等も考慮して設定する方針であります。課税免除については、公益性のあり判断が容易な修学旅行等に限定するとしています。こうしたところで、委員会としての方針をまとめたところです。今後、委員会案に対する課題などを伺うため、改めてアンケートを実施しまして、次の検討委員会では、アンケートを踏まえたうえでの課税要件の最後の整理や答申の素案について検討する予定としております。今後のスケジュールについては、答申のまとまったところで議会への報告やパブリックコメントを実施するという流れになりますので、もう少し時間がかかるものと考えております。以上です。

(会長)

ありがとうございました。KPI の頁では、最近の傾向がわかりやすくまとめられていたかなと思います。それから、観光協会を DMO 化して観光地経営体制を構築するということをやっていて、これから確立していくという説明だったと思います。また、オーバーツーリズム対策など財源が十分ではないということで、新たな観光財源について検討しているということでした。

本日はみなさんの決を採るといったことはございませんので、気兼ねなくご意見やご質問をいただければと思いますが、いかがでしょうか。いらっしゃらなければ、一人ずつご発言をいただければと思います。それでは、A 委員からお願いいたします。

(A 委員)

いまの観光協会はこれからどうなるのでしょうか。一般社団法人出雲観光協会のままでよろしいのでしょうか。

(事務局)

はい、特に名称は変わりません。

(A 委員)

では、DMO の登録とはどういうことですか。

(事務局)

資料の 9 頁をご覧ください。説明を省略してしまいましたが、観光庁が定めた一定の基準を満たす観光協会などの団体について、地域のために観光地経営をしていくものだということでお墨付きを与えるようなものです。県内でいいますと、松江観光協会さん、大田市の観光協会さんがあります。益田市さんは、登録 DMO となる一歩手前の候補 DMO となっています。また、出雲市の属する団体では山陰両県にまたがる山陰インバウンド機構、県の観光連盟、中海宍道湖大山圏域が DMO としての登録を受けておられます。全国でも 330 くらい DMO がありますが、出雲でもデータ等を活用して地域を稼がせる観光地経営をしていこうということで 10 月に無事に DMO として登録されたところです。では、お墨付きをいただいたら何が変わるのかということですが、実際にデータをもとにマーケティングなどを行っていくために組織を変えたりということをやりはじめたところです。新年度からはそうした形で観光施策をひとつひとつやっていき、観光消費額をあげて、みなさんにどう還元できるのかということを経営のみなさんと一緒に考えていく組織になっていこうとしているところです。

(A 委員)

詳しくありがとうございました。基本計画では 5 年間ということでしたが、PDCA を回すために今後はこの会議が毎年 1 回あるということですか。

(事務局)

計画では、成果指標が出そろったのちの7月くらいに進捗状況等のチェックをしていただこうと思っています。年に1回は最低開催することになると思います。

(A委員)

評価もするんですか。役割としてどこまでが求められるのかを教えてくださいませんか。

(事務局)

7月の時点では、市内部の関係各課も含めて、自己評価や改善策を出して、そこで出てきたものが適切かどうかについて意見をいただきたいというイメージでおります。

(A委員)

はい、ありがとうございました。

(B委員)

失礼します。21 ページからの戦略 D の PDCA サイクルの図はすごくわかりやすいと思いました。PDCA が細かく記載してあるので、それに沿ってしっかりと取り組まなければ、成果報告として報告書に記入する内容が薄くなってしまうと感じます。特に、地域観光戦略会議が担わないといけない部分というのはかなりあるんじゃないかと思いました。戦略 D の人的ネットワーク、地域プロジェクトの検討、地域の担い手・運営体制の検討は地域でそれぞれやっていかないといけない部分だと思っています。また、事業方針の中の「地域間格差の解消」というところが三方よしの「住民よし」を担っていく部分だと感じました。今回の観光基本計画は、とても素晴らしいものができていると思っています。ただ、その中の三方よしは実現しにくいものだと思います。観光客と事業者の二方よしだけなら比較的实现できそうですが、そこに実現しにくい「住民よし」を加えたことが出雲の観光基本計画の特徴であり強みだと思います。それぞれの地域の住民にとって何がよいのかはそれぞれの地域でないとわからないところがあるので、これを充実させていかないといけないと思います。地域事務局の形を整えていく必要があるということをやより強く感じたところです。

(C委員)

はい。令和7年度に取組をさせていただいて、主に戦略 D の観光地経営体制・人づくり戦略で NPO 法人スサノオの風の名前を出していただきました。他の地域と違い、佐田地域は観光地かと言われるとそうではなくて、地域住民が住んでいるところに観光客の訪れる場所があるという認識をしています。これまで「地域全体でこういったことに取り組んでいかないといけない」という情報の共有はできたと考えております。いまは町内で情報共有できたところですが、地域外の方に向けて地域のことを知っていただいて、来ていただくといった

取組をしていかないといけないと考えております。地域戦略会議の運営で「スサノオの風」と書いていただいておりますが、市と観光協会さんに頼った部分も多く、まだまだ事務局としての力が足りないので、これからしっかりと補っていかないといけないなと考えているところです。

（D 委員）

DMO で何ができるかということをご説明いただきました。私もいろんな DMO に関わって、いろんな事業に参画していますが、いままで関わったものの中で地域に完全に溶け込んで、還元できたかというのは肌感覚ではそれほどありません。直接的な観光振興にまだ到達していない部分があるように感じています。私は人づくりが非常に大事だと思っております、観光事業者だけでなく住んでいる方も「自分のまちにはこういうものがある」ということがいえるようになることで、日本全国の方・世界の方につなげていくことが非常に大事だと思っております。計画のなかにそのあたりも入っておりますので、これが着々と進むことを願っています。

（E 委員）

出雲地方というのは閑散期と繁忙期の差がすごくあるなと感じています。特に今年はそうです。思い起こしますと、昨年は大阪関西万博があって、「こちらに来る方が減るんじゃないか」と言われながらもそこそこ来られました。神在月の神迎祭が 11 月の遅くにあったこともあり、12 月もお客様がたくさんいらっしゃいました。12 月の単月だと過去最高に近いお客様が来られました。それに対して、三が日が終わった後は、地震があったり、週末ごとに積雪がありキャンセルが出て、非常に厳しい結果となりました。ただ、2 月の終わりの連休からお客様が来られるようになりました。出雲のお客様はだいたい半分が観光で半分がビジネスといわれていますが、そのビジネスの方に観光のほうにもいっていただくということをホテルでも考えております。また、出雲はカミアリーナや浜山球場があって、スポーツのお客さんも期待ができます。私からは宿泊の現状についてお知らせしました。以上です。

（F 委員）

アクションプランを立てられて、数値目標があり、様々な取組やそれを実施する主体・市の担当課を明確にされたという部分は非常に良かったと思っておりますし、新たな観光財源も用いて予算を確保されていくと、ますます観光が面白くなっていく、前に進んでいくのかなと思いついて見させていただきました。

一点確認ですが、資料 1 の 7 頁で数値目標を示していただいた中にリピーター率がございました。出雲大社周辺の日帰りのリピーター率は低下傾向になるということでしたが、ほかの数値が上昇している中でこれが低下しているのはどうしてでしょうか。これから分析されるかとは思いますが、近辺の方でリピートされる方が減ったということなのか、全体の分母が増えてリピーターが減ったとなったのか。このあたりはどのようにお考えでしょうか。

（事務局）

ありがとうございます。2025 年のリピーター率については算定中ですが、一昨年は日御碕の道路崩落の情報があったために、大社周辺も日御碕とセットで行けないということで、来る方が減ったかもしれないと思っております。どういう傾向にあるのかということは、動態調査の確定値を見て改めて検証させていただければと思っております。

（F 委員）

わかりました。観光が元気になると地元の人も元気になるというお話があった中で、身近な方が出雲大社を訪れる機会も増えてにぎやかになるとうれしいなと思っております。そういった中で伺いましたので、また詳しい状況をお聞かせ願えればと思いますし、引き続き頑張ってくださいなと思います。

（会長）

確かに非常に気になる数字ですので、分析すべきかなと思いました。

（G 委員）

失礼します。27 頁ですが、宿泊税が検討されているということを知りまして、こちらの収入が観光振興をしていくうえでのいろいろな問題を解決していくための予算になるのかなと思い、実現していくといいなと感じたところです。

また、地震がありました。おかげさまで弊社に何の影響もなく、市内でも大きな被害はなかったと聞いていますが、観光地で地震があったとき、みなさんどうされるのかなというところは気になりました。今回は弊社でも地震のときにお客様はいらっしゃらなかったのですが、自社のことだけを考えて避難すればよかったですが、お客様がいた場合、お客様・観光客の方が安心して避難できるようにどういう情報があるのか知っておくことが必要だなと思いました。

（会長）

災害はいつやってくるかわからないです。この地域は大きな地震がないと言われておりますが、昭和 22 年に神門通りに平行する馬場通りで道路が盛り上がるような大きな地震が起きています。そういうことで、神門通りでは年に 1 回、防火訓練をやったり、勉強会等も行う予定です。災害はいつやってくるかわからないという点は我々も肝に銘じておかなければならないと思いました。

（H 委員）

いま、斐川町の地域観光戦略会議にも出席させていただいております。地域のみなさまと話し合いを重ねたり、事業に取り組むということをしています。その中で、DMO に期待するところが大変大きいと思っております。DMO には地域に伴走していただくという役割もあるかと思います。資料 1 の 10 頁あたりから基本取組のフレームはしっかりみえているので

すけれども、DMO そのものの特徴がみえると、なお、地域としても一緒に伴走していただけるということがわかるのではないかと思います。観光基本計画の 11 頁にある行動指針にのっとって DMO が活動し、地域のみなさんとともに三方よしを築き上げていくことを盛り上げていただければという気持ちであります。

そして、斐川で活動していると思うのですが、やはり事務局となれる団体などが必ずしも地域にない場合があります。私どもの事業所も、観光の方がたくさんお見えくださっているように見えるかもしれませんが、地元の方に支えていただいているのが本当の姿です。「地域のなかの観光施設などが事務局をしてくれるのか」と考えますと、小さな事業所では観光のための人員を割くのが難しいように聞いておりますし、他方でそういった活動をしている方は時間がないということがあります。そういう点で、資料 1 の 20 頁の DMO の新体制にあるように、DMO のなかにどれだけの人員がいらっしゃって、全体としてどれくらいの人が地域担当として実働できるのかなというところも気になりました。

長くなりますが、併せて、斐川地域ですと、道の駅がございますので、道の駅との連携も重要だと思います。また、例えば出西はコミセンの活動が大変熱心でして、地域の歴史の話をしっかりとまとめられたりと、意識の高いところです。そうしたコミセンの方やコミセンが集められた人材・情報を大事にしていくと出雲らしさが魅力を増すのではないかと感じております。

（事務局）

はい、DMO に大変期待していただいていると感じております。地域観光戦略会議については、無理のないところで事務局ができていけばと思っておりますし、観光協会が伴走支援もしていかなければいけないと思っております。資料では 20 頁のオレンジで色分けをしているところが新体制として係を作ったところになりまして、その中の観光資源係が地域に入っていってしままで日の当たってこなかった部分についても日を当てていくという役割を担っています。ただ人員体制について、来年度から人数が増えるのかということそうはなっておりません。そういった部分について、今後、新たな財源も期待しているところであり、なかなか一足飛びにはいかないところですが、幅広い地域の方々と協力して観光客のおもてなしをするような整備をしていきたいと思っておりますので、引き続きご協力をお願いいたします。

（副会長）

失礼いたします。個別のことを申し上げますと、7 頁に出雲大社の日帰りのリピーター率が下がっているという点です。その要因の一つとして、「大社に行く道が混んでいてお参りできないから他を回らこい」というのが、結構、地元の方にはあるかと思います。私は交通関係の方とお話する機会が多いですが、やはり地元の方は出控えるんですね。渋滞に巻き込まれるなら違うところに行きたいということがあります。交通の部署にそういうデータがあるかもしれませんし、その背景を調査されたほうがよいかなと思いました。

もうひとつ、資料 23 頁の戦略 D「観光地経営体制・人づくり戦略」・主要施策 D-2「地域

との協働体制の構築」です。地域の担い手の足元がまだまだ固まっている状況ではなく、だいぶご苦労なさっています。「観光協会や市は、役割分担を考えながら、地域事務局を支援します」とありますが、私の肌感覚としては強いリーダーシップを期待するということを申しあげたいと思います。やはり伴走支援するにも、最初はリーダーシップが必要だと思えますので、ぜひご配慮いただけると各地盛り上がるのではないかと思います。

最後に、全体的な話について4頁です。今日ご説明いただいたアクションプラン・進捗管理等々につきましては非常によくまとめられているのですが、少し物足りないかな、手付かずではないかなと思うのは、戦略B：観光まちづくり戦略のStep1：市民へのインナープロモーションです。なかなか大変だと思いますが、市民向けの観光基本計画の理念の浸透ややる気の向上、観光事業の促進にみんなで寄与していくんだぞという雰囲気づくりは物足りないように思います。せっかく基本計画ができて地元の方が知る機会が少ないですね。マンパワーも予算もない中ですと、ケーブルテレビの番組とタイアップなされば、いかがでしょうか。年配の方が意外とお孫さんと見ていらっしゃるんじゃないかと思います。そのあたりを戦略的に取り組まれてみてはどうかと思います。その流れで、「戦略C：誘客・ファン拡大・Step1：出雲の特別性を伝える」というのも、自ずからそうした活動によって地元の方が出雲を再認識して特別性がどこにあるのか、地に足のついた理解を重ねることで広がっていくのではないかなと思いました。大変だとは思いますが、この部分に力を入れられてもよいかなと思いました。

（事務局）

ありがとうございます。いま観光課を中心に観光戦略は進めておりますけれど、出雲市のプロモーション戦略というものを先般、策定いたしまして外だけではなく内にも出雲の何が素晴らしいかを届けていくということを明確に打ち出しております。その中でインナープロモーションに類するような取組の強化ということを謳っておりますので、観光課だけでなく、市のいろんな部局がそれぞれの魅力を伝えていくことにしております。3月に作ったところなので、これからの発信になろうかと思いますが、そこにもしっかり取り込んでもらえるように内部での調整をいたします。ありがとうございます。

（会長）

ありがとうございます。他にご意見がございますでしょうか。ないようですので、私のほうから最後に一言申しあげます。ご案内のとおり、現在、出雲ではホテルラッシュとなっているようです。おそらく2029年目標値も超えてしまうのではないかと思います。そうしたときに稼働率をみてください。出雲はホテルがないとよく言いますが、それは繁忙期の話で、この数値が実際のところだと思います。したがって、この稼働率をあげていくということが重要なことだと思っております。

また、宿泊者数についてだいたい出雲市は松江市の半分ですが、これは新たな観光財源についても関係してくるところかと思います。金額についてもしっかり検討していかなければいけないと思っているところであります。

委員のみなさま、事務局から何かありますでしょうか。

ないようですので、事務局に進行をお返しします。ありがとうございました。

(事務局)

進行ありがとうございました。また、委員のみなさまも貴重なご意見をありがとうございました。

以上をもちまして、終了させていただきます。次回は7月頃の開催を予定しています。詳しくは改めてご案内させていただきますので、よろしくお願いします。

本日はありがとうございました。